

～新たな成長ステージへ！～

ロームとは

- **ロームの誕生**
 - ・1954年に抵抗器の実用新案が成立しました。その後、1967年にトランジスタ・ダイオードを発売し、1969年にはLSIの開発に着手しました。
 - ・ロームはアナログ半導体を得意とし、アナログ⇔デジタル信号交換を行う半導体を多く生産しています。アナログ半導体に加えて、パワー半導体、センサー、LSIと幅広いラインアップを備えています。
 - ・ロームの製品は、AV機器、白物家電、携帯電話、OA機器、ゲーム機、産業機器、自動車と広い分野で搭載されています。
- **社名の由来**
 - ・創業当時の製品である抵抗器 (Resistor)の頭文字 Rに、抵抗の単位Ω (Ohm)を組み合わせましたものです。
- **企業目的**
 - ・「われわれは、つねに品質を第一とする」

業績動向

- **2017/03期**
 - ・2017年3月期の売上は前期比横ばいの3520億円、営業利益は同5%減の318億円、経常利益は同3%減少し、355億円、そして、当期利益は同3%増の264億円となりました。
 - ・営業、経常利益段階で減益となったのは、前年の期中平均為替レート1ドル当たり120円に対し、2017年3月期は109円と、円高が進行したためです。
- **2018年3月期計画**
 - ・2018年3月期も当社では期中平均為替レートを105円と、円高を前提としております。
 - ・それでも、2018年3月期には売上は同5%増の3680億円、営業利益は同19%増の380億円、経常利益は同8%増の385億円、当期利益は6%増の280億円を見込んでいます。
 - ・今第一四半期の決算は通期予想を多少上回るペースで進捗しました。

ロームの成長戦略

- **アナログ半導体市場の成長**
 - ・ロームが得意とするアナログ半導体の世界市場は2017年～2020年までの間に年率4.5%増と、半導体世界市場の年率3.7%増を上回るペースの伸びが予想されています。
 - ・用途別では、自動車、通信、産業機器向けが、アナログ半導体市場の伸びを牽引する見通しです。
- **ロームの成長戦略**
 - ・このような市場見通しを背景に、ロームでは、今後、車載市場へ注力し、産業機器市場を開拓、そして、海外顧客のウェイトを上げる意向です。
 - ・商品別では、デジタル制御された高機能アナログ、SiCを中核としたパワー、MEMS・フォトリソを展開するセンサー、超小型デバイス技術を展開するモバイルと、4つのソリューションに注力します。
 - ・生産革新、生産工場の現場力向上によって、世界一の工場を目指します。

株主還元、社会貢献活動

- **株主還元**
 - ・年間130円を基準配当金とし、長期で業績改善に取り組み、基準配当金の引き上げに努めます。
 - ・連結配当性向は30%以上を目安とし、状況に応じて、特別配当等の追加的な株主還元策を実施します。
 - ・成長のためのM&A等の投資を積極化し、必要以上にはキャッシュを積み上げない意向です。
 - ・今期は創業60周年の記念配当110円を実施します。
- **社会貢献活動**
 - ・当社は革新的な商品の供給を通じて、社会のイノベーションに貢献します。
 - ・複数のCSR国際規範に準拠し、当社株は二つの社会的責任投資株価指数に採用されています。
 - ・公益財団法人ロームミュージックファンデーションと共に、継続的な音楽文化支援活動にも取り組んでいます。